

令和8年3月19日

第31回「関西企業フロントライン NEXT」を取りまとめました エフェクチュエーションの観点から考察する 中小企業の海外展開プロセス

近畿経済産業局では、関西の中堅・中小企業を対象に、企業活動の現場にみられる新たな潮流に着目した調査レポート「関西企業フロントライン NEXT」を公表しています。

第31回となる今回は、不確実性が高い環境下で有効とされる思考様式「エフェクチュエーション」の視点から、海外展開に挑戦する中堅・中小企業の海外展開プロセスを考察しました。

1. 概要

日本経済が物価高や労働供給制約といった構造変化に直面する中、中堅・中小企業にとって、売上や付加価値を高めるスケールアップがこれまで以上に重要となっています。

本レポートでは、スケールアップの有効な手段である海外展開に着目し、「エフェクチュエーション」の観点から、より実効的な海外展開プロセスを考察しました。

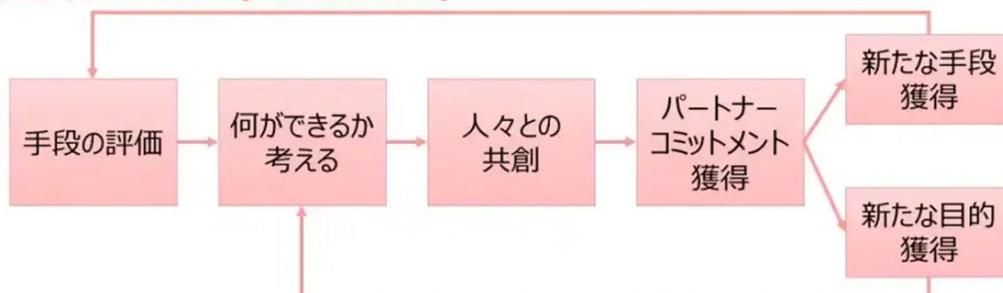
2. 調査結果

【海外展開とエフェクチュエーションの関係性に着目】

本調査では中小企業10社にヒアリングを実施しました。ヒアリングを重ねる中で海外展開は状況や環境に応じて柔軟に対処してきたという事実を多数確認したため、海外展開とエフェクチュエーションの関係性について着目しました。

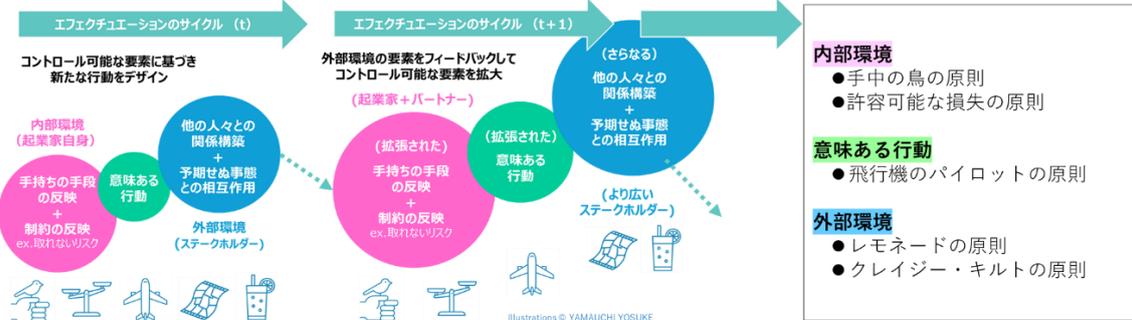
エフェクチュエーションは「手持ちの手段(資源)」を起点とし、「コントロール」に基づいた思考様式で、不確実性が高い環境下において有効的とされています。

エフェクチュエーション (Effectuation)



【エフェクチュエーションを踏まえた事例分析】

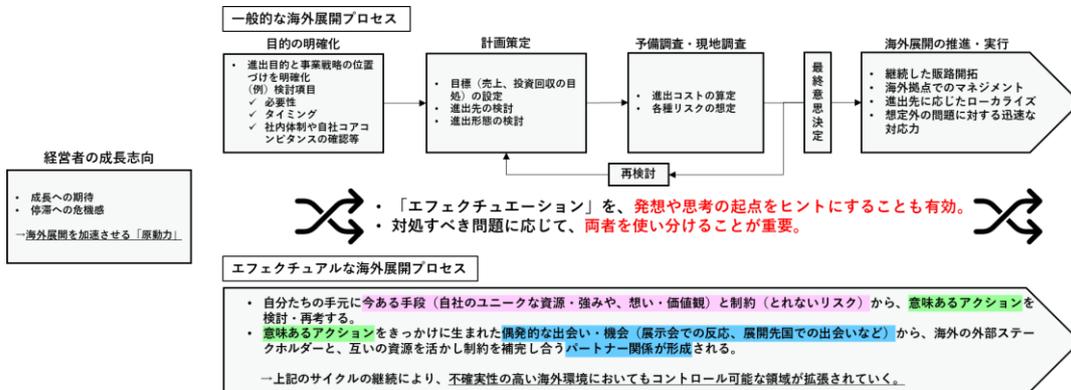
各企業の海外展開プロセスをエフェクチュエーションの領域毎に分析した結果、自社が持つ経営資源を起点に、絶えず試行錯誤を繰り返し、コントロール可能な領域が広がったことが示唆されました。こうしたプロセスにおいて、予期せぬ事態から、新たな手段を獲得したり、パートナーとの協業に繋がった結果と推察されます。



関西企業フロントライン NEXT Vol.31 P21 より抜粋

【海外展開プロセスの考察】

事例分析の結果、不確実性の高い海外環境下では、一般的な海外展開プロセスに加え、エフェクチュアルなプロセスも有効であることが示唆されました。また、両者は優劣ではなく、対処すべき問題に応じて使い分けることが重要と考察しました。



関西企業フロントライン NEXT Vol.31 P40 より抜粋

3. 今後の取組

当局としては、本調査の発信をするとともに、海外展開に挑戦する中堅・中小企業に寄り添った支援策の活用も合わせて、持続的な外需獲得による日本経済の成長・発展に資する取り組みを進めてまいります。

また、今後、大きな成長が見込まれるインドをはじめ、アジア地域・グローバルサウスのビジネス機会の獲得に向け、中堅・中小企業の支援を強化していきます。

【参考：「関西企業フロントライン NEXT」について】

近畿経済産業では、中堅・中小企業の実態把握機能の強化の一環として、2017年6月から、関西の中堅・中小企業を対象とするヒアリング調査・分析レポート「関西企業フロントライン」を発信してきました。

2019年4月からは、2025年大阪・関西万博の開催や2030年を目標とするSDGsを見据え、「関西企業フロントライン NEXT」にリニューアルし、企業活動の現場に見られる新たな変化の兆しにより着目した情報発信に取り組み、関西の中堅・中小企業をはじめ、関係各位のビジネス発展に向けた対話の契機となるレポートを発信しています。

<https://www.kansai.meti.go.jp/1-9chushoresearch/report.html>

(本発表資料のお問い合わせ先)

近畿経済産業局 総務企画部

中小企業政策調査課長 阿瀬

担当者: 小崎、作野、浜田、田中

電話: 06-6966-6057

メール: bz1-kin-chushokigyoseisaku@meti.go.jp